

ウドンセットのチョーチン釣り

●寄せて釣る縦バラケ（「粒戦」の落下刺激により縦系に寄せて釣る！）

バラケ 粒戦50cc+水100cc+セット専用バラケ200cc
+新B100cc+GTS100cc



●作り方／「粒戦」50ccに水100ccを入れてそのまま5分間放置し、「セット専用バラケ」200cc、「新B」100cc、「GTS」100ccを入れ、20回ほどていねいにかき混ぜて

若干の粘りを出す。←これがポイント！かき混ぜる回数で、粘り加減が変わるので、エサの持たせ方に応じて調整する。

●釣りのコツ

この釣りのポイントは、横に広がるようなバラケにより

魚を寄せるのではなく、タナを中心にして縦に寄せることがポイントになる。そのため、「粒戦」を最初からブレンドし

てエサを仕上げ、「粒戦」の粒がバラケエサから抜けて下方に散るようになる。エサ付け

の圧の掛け方で、バラケエサの開き方を調整するが、基本的には一旦深くなじませてからバラけるイメージである。

また、紹介したブレンドで、「感嘆」を使用する。

まだウワズリが強いときには「粒戦」を別作りして、使用しているバラケエサに追い足していくこともある。

アタリの取り方は、弱く小さなものは見送り、ズバツと力強く入るアタリを中心にしてアワせていく。くわせエサ

は基本的にはウドンがよく、ハリスをしつかりと張らすときには「特選わらび彩」を太

めに仕上げたり、大きくハリ付けしたり、ハリの号数を大きくして対処する。逆に軽く

くわせがよいときには、「力玉」を使用する。





●くわせエサ

力玉、力玉大粒、感嘆、感嘆Ⅱ、
特選わらび彩



くわせは、「力玉」、「力玉大粒」「感嘆」、
「感嘆Ⅱ」「特選わらび彩」で、低活性なら
ば「力玉」、高活性ならば「特選わら
び彩」「力玉大粒」、「感嘆」「感嘆Ⅱ」は、
その日の状況によって使い分け、2種類
をブレンドすることもある。

ここがポイント① アタリが少ない、出ないとき

ウヅリが考えられるため、バラケエサをしっかり付けて、トップ先端までしっかりとなじませるようにして、タナにへら鮎を寄せるようにする。

また、「タナ違い」もあるので、管理釣り場ならば、1尺刻みで竿を変更して、一番アタリが出るタナを探るようにする。

サワリが弱く、食いアタリにつ

ながらないときには、下ハリスを長くして対応しよう。

エサの方向性は、使用しているエサに、別作りしていた「粒戦」を差し込みながら、アピール度を高めていく。ここで開くタイプのエサにしてしまうと、縦方向への寄せができなくなり、タナに寄らなくなるので気を付けよう。



■実際の手順

■手順

- ①使用しているエサを小分けにして、別作りの「粒戦」100cc+水100ccをひとつまみ差し込んで、「粒戦」の量を増やしていく。
- ②上バ리를ワンサイズ大きくして、バラケがタナまで持つようにする。
- ③糰系のエサを追加するときには、「ダンゴの底釣り夏」「底バラ」等を使用する。魚はタナ付近に居るので、その魚を釣るタナまで下げることと、下からの寄りを強くしていくために「粒戦」追加でなじませる。アタリの取り方も注意して、弱いアタリは見送り、しっかりとウキが強く入るアタリに絞り込む。くわせエサも、このようなときには「軽いタイプ」と「重いタイプ」を打ち分けて、反応がよいほうを使用する。



ここがポイント2 カラツンのとき

バラケエサのタッチが合っていないことが多い。エサが持ち過ぎているのか、上でバラケ過ぎているのか、そのためのカラツンや糸ズレが考えられる。エ

サのネバリが原因になることもある。まずは、「セット専用バラケ」を振りかけて手直しをする。バラケエサを作り替え、リフレッシュさせるのもよい。



■原因と理由

- ①エサの持ちすぎのときには、バラケエサに対するカラツンがある。
- ②上からのバラケ性が強すぎると、糸ズレによるカラツンが出る。
- ③下ハリスが長いと、サワリだけで食いアタリにならないときがある。
- ④くわせエサが軽すぎると、エサが魚のおおひで舞い上がり、カラツンになる。
- ⑤バラケエサが時間の経過と共に粘りが出て、タナで持ちすぎでのカラツンがあるため、そのときには「セット専用バラケ」



を振りかけて様子を見る。逆に、上方からのバラケすぎによるウワズリには、エサ付けの際にエサの表面だけをいねいに転がしてコーティングする。

■基本セッティング

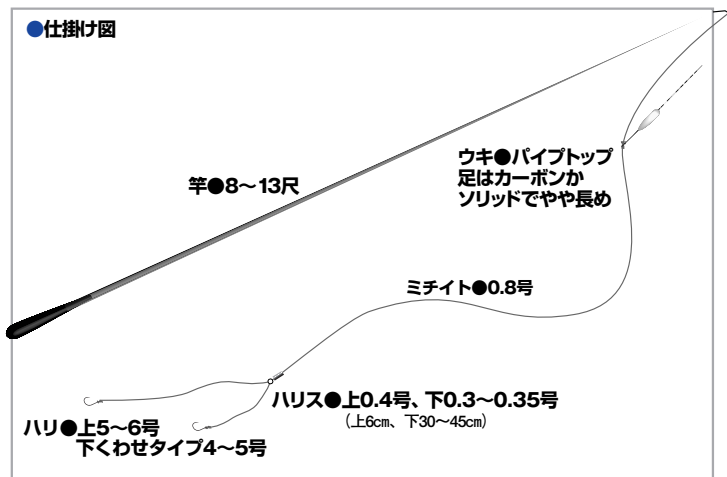
年末までは、まだ魚の動きもよいのでトラブル回避のために、ミチイトは0.8号、ハリスは上が0.4号、下ハリスを0.3~0.35号にする。ハリスの長さは、その日の状況で異なるが、6cmと30cm位でスタートする。

ハリは上が5~6号、下がくわせタイプ4~5号。

竿は、狙う水深で異なるが、8~13尺位から選ぶ。

ウキは、ある程度上エサの重さに耐えられるようなものがよく、8尺チヨーチンで0.25mm厚の板オモリを12mm×17mm角程度、13尺では、その倍の浮力があるものを選ぶ。

●仕掛け図



●オモリ 実寸大

8尺チヨーチン
0.25mmのオモリ



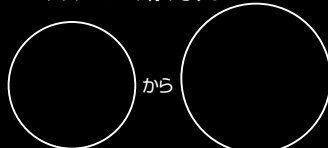
8尺チヨーチンで、0.25mm厚の板オモリを12mm×17mm角程度、13尺では、その倍の浮力があるものを選ぶ。

13尺チヨーチン
0.25mmのオモリ



●エサの大きさ 実寸大

バラケ 直径は、1.7~2cm位となり、打ち始めはややラフにハリ付けをする



くわせ

ウドンの場合、5mm角位で、時には大きく大きいものに反応することもある。

